

(様式1)

平成27年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 090	提案機関名 自然環境保全センター
要望問題 大規模道路工事が野生動物（特にニホンザル）の行動に与える影響把握	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 県内では、平成26年度から新東名高速道路及び厚木秦野道路の本格的な工事が開始される。これらの道路は、丹沢山地の南麓を通過する予定となっており、当該地域に生息するニホンザルをはじめとする野生動物の生息状況と行動に著しい影響を与える可能性がある。 過去には、圏央道工事が行われた年に、当該地域に行動圏を持つ南秋川地域個体群のK2群の移動パターンが変化したといった事例がある。 今後の野生動物の保護管理、被害対策等を進めていく上で、これらの工事による野生動物の行動に与える影響を、事前、事後の観測を通して把握し、関係者間で情報共有していく必要がある。 そこで、現在、当課が行っているモニタリング情報や市町村等が実施する追い払い情報、鳥獣被害防除対策専門員等の情報を活用し、工事前後のニホンザル及びその他の野生動物の出没、移動等の情報を整理して、工事による影響を分析する調査研究を要望する。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター②畜産技術センター③水産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	自然環境保全センター	担当部所	研究連携課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合)			
対応の内容等 道路工事による分断の影響評価は、本来原因者が行うべきものですが、例示された3路線は、いずれも事後評価制度のある環境影響評価法施行以前の条例アセスを受けたものです。 行政が行う地域の環境管理の視点で、ニホンザル及びその他の野生動物の出没、移動等の情報を整理してGISの手法を用いたマップを作成することは意義あることと考えますので、森林GISをベースとして情報を共有できるよう、連携を図りながら進めていきたいと考えています。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			